

第60期
事業報告書

2004年4月1日～2005年3月31日

RIVER

RIVER ELETETEC CORPORATION

リバーエレテック株式会社

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに第60期事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社は2004年8月27日にJASDAQへ株式を上場いたしました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と、厚くお礼申し上げます。

平成17年3月期におけるエレクトロニクス業界は、AV機器向け需要が好調だったこともあり、上期においては堅調に推移しましたが、下期においては、一部の分野において需要の一巡もあり若干の陰りが見られ、また一部のセットメーカーにおいては生産調整を行うなど、不透明な動きも見受けられました。

このような状況の下、当社グループは、次世代機器向け電子デバイスの新技術開発に積極的に投資するとともに、世界最小クラスの水晶振動子・水晶発振器を市場に投入いたしました。また、既存分野へのさらなる拡販を行うとともに、新規分野への進出を図るなど、引き続きグループを挙げて業績の向上に努めてまいりました。この結果、上場後初となる期末決算において、前期対比で増収増益の業績をご報告することができました。

今後もお客様に満足していただける製品を提供し、豊かで楽しいデジタル・ライフのお手伝いをすることで、社会から高い評価を得られる会社を目指してまいります。今後ともより一層のご理解とご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

若尾 富士男

The River Spirit

世界の人々に
快適なデジタル・コミュニケーションを
提供します。

社 是

良く 安く 早く

経営理念

源流 創価 革新

水晶デバイスの小型化で業界をリード 独創的発想で新しい技術にチャレンジしていきます。

携帯電話やパソコン、デジタルスチルカメラといったデジタル情報機器は、今やすっかり人々の生活に浸透しています。また、人やモノの状況をいつでもどこでも把握し、自由な情報のやりとりを可能にするユビキタス・ネットワーク社会も近年中に実現することでしょう。当社は、こういった情報通信機器において必要不可欠な部品である水晶デバイス、中でも水晶振動子・水晶発振器の開発・製造・販売を中心に行っています。

特定の角度で切り出した水晶板に電界をかけると、ある一定の正確な振動を始めます。水晶デバイスはこの原理を応用したもので、電子機器内において安定した周波数を維持する役割や、電子回路をタイミング良く動作させる役割を果たしています。

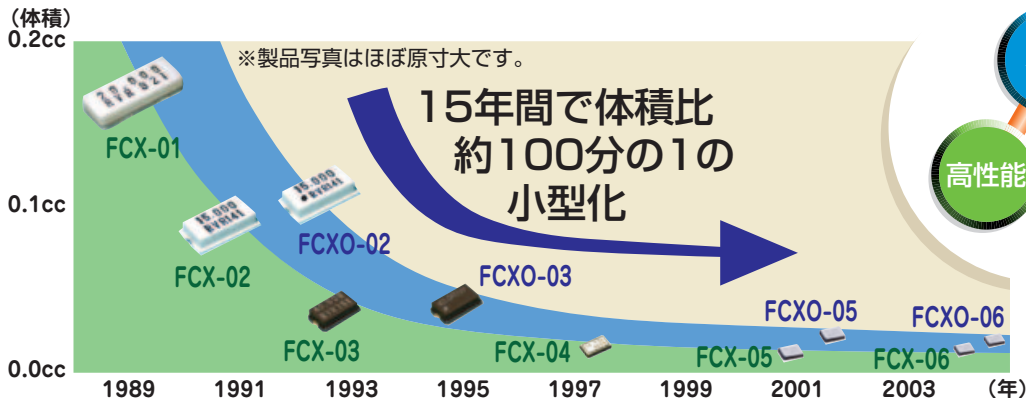
当社は、水晶振動子・水晶発振器の小型化において常に業界をリードしてきました。現在当社で生産している最小の水晶振動子は2.0×1.6ミリと米粒よりも小さ

く、世界最小クラスを誇ります。

製品の小型化が進むほど、そこには様々な技術が必要とされます。品質に対する要望にも、より高いレベルで応えなければなりません。当社は独創的発想で様々な独自技術を開発し、この命題に対応してまいりました。また、生産設備の重要部分を内製化することで、高い生産効率と信頼性を実現しています。営業部門においては、常にお客様のニーズを把握し、迅速に要望に応えるために、商品開発部門と連携し、技術支援型の提案営業を行い、競争優位を確保しています。これらの結果、当社の製品はお客様から高い支持を得ています。

水晶デバイスは、今後のデジタルネットワーク社会の発展とともに、ますますその重要性が増していきます。今後もより魅力的なデバイスの開発に挑戦し、社会に貢献できる会社を目指してまいります。

■小型化の歩み



■製品のコンセプト



2006年3月期を「新たな成長への本格スタート」と位置付け、「持続可能な成長」を目指します。

Q 当期の業績はいかがでしたか。

A 第60期（2005年3月期）は、連結売上高7,525百万円（前期比105%）、連結経常利益576百万円（前期比98%）、連結当期純利益329百万円（前期比107%）となりました。前二期は減収が続いておりましたが、当期は増収となり、力強い回復に向けた動きを感じております。また、経常利益では前期を下回ってしまったものの、純利益では増益を達成することができました。

上半期は「デジタル家電ブーム」やオリンピックに向けた需要増で、売上・利益共に非常に好調でした。しかし、中間決算では売上高が前期比108%、経常利益は152%であったことを考えると、下半期に減速したことになります。その理由としては、主力であるデジタルスチルカメラ向け商品がセットメーカーの生産調整によりやや停滞したこと、地震など天災による取引先工場の操業停止など複数の要因がありました。また、利益面で伸び悩んだ最大の要因としては、販売単価の下落が挙げられます。販売数量は前期より伸び、売上高も前述のとおり前期を上回っているのですが、通期の売上総利益は前期比で96%と前期を下回りました。今後、売価を維持する努力と原価削減に向けた努力をより一層強化しなければならぬと感じております。

また60期においては、念願の株式公開を果たすこと



代表取締役社長
若尾 富士男

ことができました。そして、業界最小クラスの水素振動子・水晶発振器を市場投入し、加えて当社独自の技術と理論を駆使して、小型ながら画期的な低周波数を実現した水素振動子の開発にも成功しました。企業として、実りの多い期であったとも感じております。

Q 今後の事業戦略についてお聞かせください。

A 当社は昨年株式公開を果たしましたが、あくまで通過点であり、今後も成長を続け企業価値の向上を図らなければなりません。「持続可能な成長」を可能にするべく、中期的な事業戦略を策定いたしました。

事業計画の概要(連結)



これまで当社は、製品の小型化でリードしているが故に競争の厳しい市場でのシェアは追わず、新しい市場での先行利益を確保することに注力してまいりました。しかし、より大きな成長を目指すべくこの方針を一部修正し、「ボリューム製品の売上維持」も小型化の先行と同時に重要視していきます。販売数量の多い分野は競争が激しい分野でもあるのですが、当社製品は品質の良さにも特長があるため、他社との差別化を図り、売上と利益を確保していく方針です。もちろん、小型水晶デバイスの開発において他社をリードするという方針自体に変更はありません。開発や拡販を精力的に行い、ボリューム製品の上に新製品を積み上げていくことで、売上と利益の最大化を目指します。

また、製品の多様化を図ることを考えております。一般に水晶振動子よりも販売単価が高い水晶発振器の比率を高めることや、水晶デバイスの中でもこれまで当社があまり手掛けていなかった製品分野、例えば音叉型水晶振動子の取り扱いを本格的に始めることなどが挙げられます。

同時に、製品が使用される分野を広げることも重要です。無線モジュールや車載関連、医療関連など、成長分

野へ積極的な拡販を行ってまいります。これにより、売上増大はもちろんリスク分散の効果も期待できます。

会社の規模を拡大するには、販売地域を拡大する必要があります。現在は日本国内とアジアが主な市場ですが、これに加えて中国を始め欧州や北米など、グローバルな視野で販路を広めていきたいと考えております。

足下の2006年3月期については、連結売上高7,788百万円(前期比104%)、連結経常利益657百万円(前期比114%)を見込んでおります。前述した経営戦略は、短期間で軌道に乗るものではありません。2006年3月期を「新たな成長への本格スタートを切る期」と位置付け、内部体制の整備を進めつつ業績の向上に努め、来るべき成長期に備える所存であります。

Q リバーエレテックの強みをお聞かせください。

A まず、製品開発において、小型化で業界を先行できる技術力を持っていることが挙げられます。携帯電話やデジタルスチルカメラを見ていただければ分かるように、電子機器はどんどん小型化・高機能化が進

んでおり、そのため小型水晶製品の需要がより高まってきています。当社は小型化を追求するため、特許取得済みである「電子ビーム封止工法」を始めとした様々な独自技術を開発してまいりました。こうした情報と技術の蓄積が、大きなアドバンテージになっております。また、生産設備の主要部分を自社で開発していることもポイントです。水晶について深い知識を持った生産設備開発スタッフが、商品開発スタッフと密接に連携しながら設計するため、最適な設備で生産することができます。営業部門においては、商品開発部門と連携した技術支援型の提案営業を行っております。顧客の設計段階から参画することでより細かいニーズに応えるとともに、製品開発の迅速化にも繋がっております。

Q リバーエレテックで生産されている水晶デバイスは、どのような用途に使用されていますか？また、今後の水晶デバイスの展望についてどのようにお考えですか？

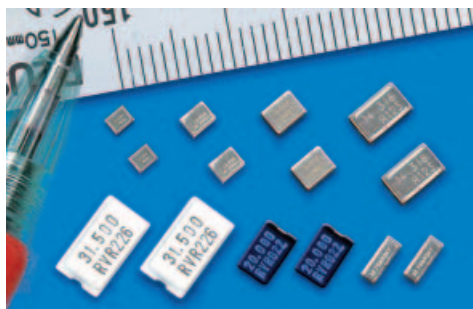
A 水晶デバイスを種類別に大きく分類すると、水晶振動子、水晶発振器、水晶フィルタ、SAWデバイス、光デバイスに分類できます。この中で当社は、水晶振動子と水晶発振器の生産を行っております。なお、水晶発振器は水晶振動子の中に発振回路を組み込んだもので、水晶振動子の応用製品と言えるものです。

当社は以前より映像関連の分野に強みを持ってまいりました。特にデジタルスチルカメラ、デジタルビデオカメラには当社の水晶製品が多数使用されています。また、最近ではカメラ付きの携帯電話がすっかり主流になりまし

たが、携帯電話のカメラも仕組みはデジタルスチルカメラと同じなので、使用されるケースが増えてきています。当社の製品は小型であることが特長ですので、小型化が進んでいる各種の電子機器に多く使われていると思っていただいてもよろしいかと思います。もちろん、白モノ家電やオーディオ機器など、身近な家電製品にも入っております。

今後の水晶デバイス市場ですが、基本的に見通しは明るいと考えております。2004年度に日本国内で生産された各種水晶デバイスの数量合計がおよそ60億個、2000年度の数量は50億個であったことから分かるように、この数字は年々伸びています。さらに今後、ユビキタスネットワーク社会が実現し、カーエレクトロニクスが発展していく中で、水晶デバイスの使用数量は飛躍





当社水晶製品

小型の物ほど新しい製品です。当社の水晶デバイスは、一部を除き全てSMDタイプ（表面実装型）となっています。

的に増加していくことが予想されています。こういった背景は、小型水晶デバイスを得意としている当社にとっては追い風になると考えております。



近年、企業の社会的責任（CSR）の重要性が高まっていますが、これについてのお考えをお聞かせください。



当社は全てのステークホルダーに対して満足を提供することを経営方針としております。そのためは、企業価値の最大化を図り、より多くの利益をあげることが最も重要であると考えており、安定した配当を実施することを重視しております。

コンプライアンスについては、社員一人一人の意識向上が欠かせません。当社においては、倫理行動憲章を定め法令順守の徹底を行っております。

環境面については、環境活動に対する方針を定め、社員への周知徹底を図るとともに、既に認証取得済みのISO14001を基準に環境マネジメントシステムを導入し、省資源・省エネルギー・有害物質の低減を進めております。また、グループ会社である青森リバーテクノにおいては環境活動の一環として「リンゴの樹を植える活動」を続けてきました。こういった活動を通じて、社員全体の意識を高めることができればと考えております。

株式上場を果たしたとはいえ、当社はまだまだ努力し、成長していかなければならないと強く感じております。今後とも株主の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

リンゴの樹を植える活動



私たちは地球環境を守る活動の一環として、工場の敷地にリンゴの樹を植えてまいりました。昨年ようやく収穫に至りましたが、残念ながら台風の当たり年であったため、収穫は予定の20%でした。収穫できたのは、生き残った丈夫なリンゴです。私たちの環境活動も、このリンゴのように、一つ一つは小さくても根強く行ってまいりたいと思います。

■セグメント別売上概況

当社グループの主要セグメントである水晶製品の売上高は、販売数量の増加のため前期比114%と好調な実績となりました。水晶製品は全売上高の79%を占めております。しかし、水晶製品と比べ売上の割合は少ないものの、他のセグメントは軒並み売上減少となりました（抵抗器・前期比84%、インダクタ・同76%、リチウムコイン電池・同80%）。抵抗器は主要製品の販売単価下落、インダクタは海外での販売数量減少、リチウムコイン電池はOEM生産の終了期間であったため調整が入ったことが主な要因であります。営業利益については、水晶製品は前期比101%と売上高に比べ伸び悩む結果となりました。売価の下落が大きく、その分を原価低減で補いきれなかったことが要因であります。

なお、リチウムコイン電池は2005年3月末をもって生産を終了いたしました。この分の売上減少は水晶製品で補う計画ですが、リチウムコイン電池の営業利益率は2%と水晶製品の21%より低いため、利益面ではプラス要因になると見込んでおります。

■水晶製品用途別売上高構成

前期では、デジタルスチルカメラとデジタルビデオカメラ向けを合わせると約50%を占めていました。2005年3月期においては、デジタルスチルカメラ・デジタルビデオカメラ向けの比率は共に減少し、合わせて40%程度となりました。ただし、デジタルスチルカメラ向けは比率こそ減少しているものの、売上金額では前期比105%と増加しております。デジタルビデオカメラは、当社が得意とする小型水晶製品への切り替えが滞り、売上が落ち込みました。

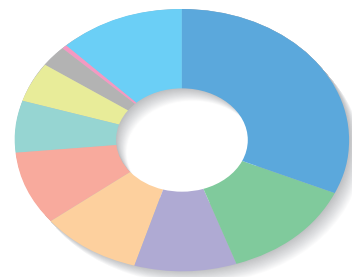
代わって増加してきたのが、車載関連と携帯電話です。車載関連は、今や低価格車でも標準装備となっているキーレスエントリー向けが好調であったこと、カーナビゲーションやETCといったカーエレクトロニクスが浸透してきたことが追い風となっております。携帯電話向けは、カメラやフェリカ（お財布ケータイ）といった付加機能の増加により、前期比で約200%の売上高となりました。使用用途の集中が解消され、売上の柱となる分野が複数できてきたことは、売上高の増加だけでなくリスクの分散という点からも、非常に良い傾向であると考えております。

セグメント別売上高・営業利益（連結）

（単位：千円）

	売上高	営業利益
水晶製品	5,976,169	1,270,324
抵抗器	471,663	109,635
インダクタ	233,191	43,527
リチウムコイン電池	738,244	13,887
その他	106,201	6,664
全社又は消去	—	△920,805
合計	7,525,470	523,234

水晶製品用途別売上高構成（連結）



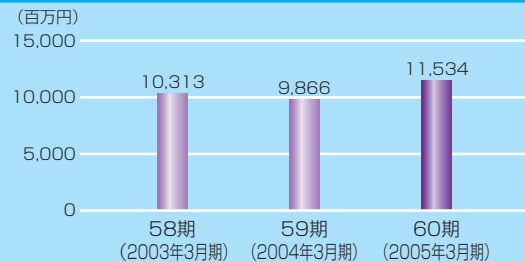
デジタルスチルカメラ	31.7%
車載関連	13.1%
デジタルビデオカメラ	9.9%
パソコン本体・周辺機器	9.8%
携帯電話	9.1%
無線等モジュール	6.4%
AV機器関連	4.9%
（オーディオ、チューナー、DVDレコーダーなど）	
TV（ブラウン管含む）	2.6%
医療機器	0.3%
その他	12.2%
（OA機器、白モノ家電、ゲーム機など）	

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

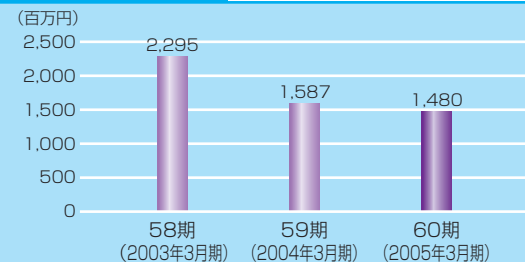
科目	期別 前期 (2004年3月31日現在)	当期 (2005年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	4,499,740	5,593,264
固定資産	5,366,347	5,930,345
有形固定資産	4,899,936	5,524,456
無形固定資産	20,754	16,074
投資その他の資産	445,656	389,814
繰延資産	—	10,483
資産合計	9,866,088	11,534,093
(負債の部)		
流動負債	2,459,667	3,153,372
固定負債	1,088,113	645,711
負債合計	3,547,781	3,799,084
少数株主持分	284,823	284,233
(資本の部)		
資本金	572,620	1,070,520
資本剰余金	233,710	957,810
利益剰余金	5,414,449	5,633,923
その他有価証券評価差額金	41,354	27,182
為替換算調整勘定	△228,651	△238,660
資本合計	6,033,482	7,450,775
負債、少数株主持分及び資本合計	9,866,088	11,534,093

総資産



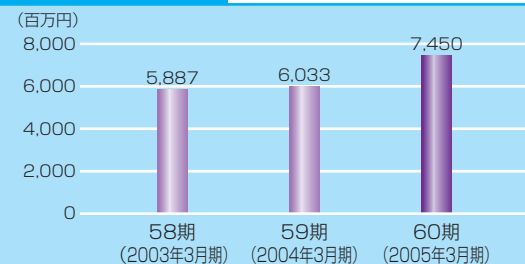
株式公開に伴う増資の影響で現金及び預金が前期比885百万円増加しました。また、水晶製品生産設備への投資により有形固定資産が前期比624百万円増加しております。

有利子負債



長期借入金の返済が主要因となり、前期比で107百万円減少しております。

自己資本



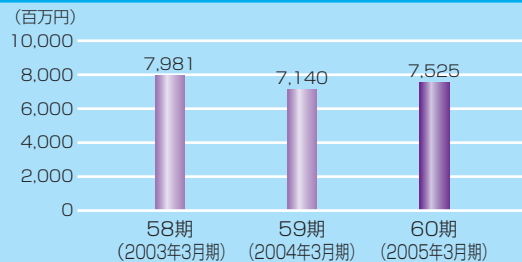
株式公開に伴う増資により、前期比で資本金が497百万円、資本剰余金が724百万円増加しております。これらを主要因とし、前期比1,417百万円増加いたしました。

連結損益計算書(要旨)

(単位：千円)

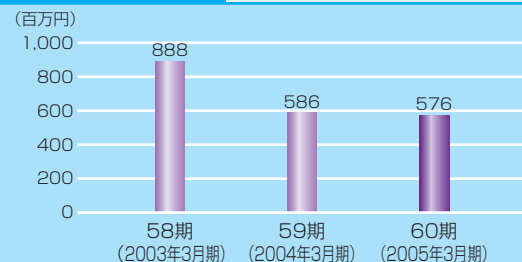
科目	期別	前期	当期
		(2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
売上高		7,140,353	7,525,470
売上原価		5,001,120	5,464,581
売上総利益		2,139,233	2,060,889
販売費及び一般管理費		1,551,683	1,537,654
営業利益		587,550	523,234
営業外収益		59,379	89,702
営業外費用		60,623	36,710
経常利益		586,306	576,226
特別利益		—	26,986
特別損失		55,233	32,744
税金等調整前当期純利益		531,073	570,468
法人税、住民税及び事業税		210,171	294,877
法人税等調整額		19,682	△57,150
少数株主利益(損失:△)		△5,711	2,777
当期純利益		306,930	329,964

売上高



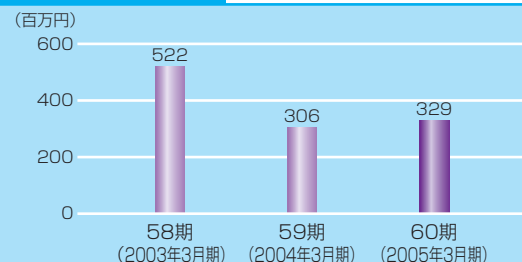
水晶製品の売上増加により、前期比385百万円の増収へと転じました。デジタルスチルカメラ、車載関連、携帯電話向けの好調によるものであります。

経常利益



販売価格下落による売上総利益減少の影響が大きく、僅かではあるものの連続の減少となりました。売上高経常利益率は前期8.2%に対し7.7%となり、同様に低下しております。

当期純利益



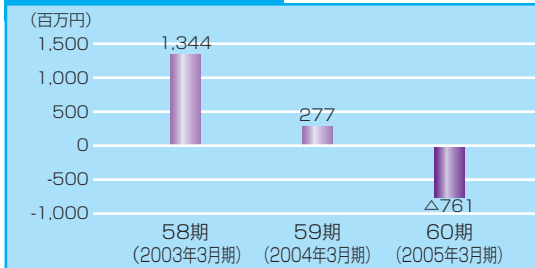
前期は発生しなかった特別利益(投資有価証券売却益)があり、前期比で23百万円の増益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

科目	期別	前期	当期
		(2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		644,697	1,037,610
投資活動によるキャッシュ・フロー		△367,138	△1,799,403
フリー・キャッシュ・フロー		277,559	△761,793
財務活動によるキャッシュ・フロー		△826,101	1,006,935
現金及び現金同等物に係る換算差額		△44,857	△3,825
現金及び現金同等物の増減額		△593,399	241,317
現金及び現金同等物の期首残高		1,577,408	984,009
現金及び現金同等物の期末残高		984,009	1,225,326

フリー・キャッシュ・フロー



営業活動によるキャッシュ・フローの増加は売上債権の増加、仕入債務の減少および税金等調整前当期純利益の増加によるものであります。投資活動によるキャッシュ・フローにおいて固定資産の取得（水晶製品生産設備）や資金以外の定期預金への預入が上回り、マイナスの数値となりました。

※フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

事業の種類別セグメント情報

(単位：千円)

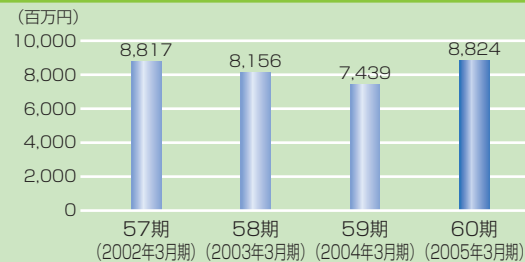
	前期 (2004年3月期)		当期 (2005年3月期)		前期比(%)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
水晶製品	5,236,075	1,255,106	5,976,169	1,270,324	114.1	101.2
抵抗器	564,860	161,662	471,663	109,635	83.5	67.8
インダクタ	307,163	51,050	233,191	43,527	75.9	85.3
リチウムコイン電池	918,266	21,987	738,244	13,887	80.4	63.2
その他	113,987	1,170	106,201	6,664	93.2	569.6
全社・消去	—	△903,426	—	△920,805	—	—
合計	7,140,353	587,550	7,525,470	523,234	105.4	89.1

単独貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

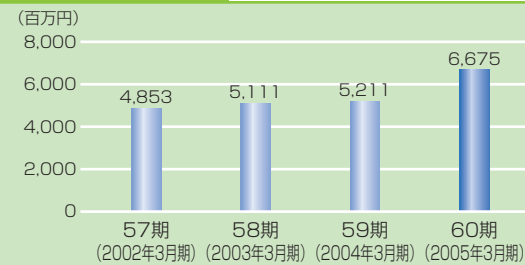
科目	期別 前期 (2004年3月31日現在)	当期 (2005年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	3,432,482	4,311,479
固定資産	4,007,056	4,502,126
有形固定資産	3,159,423	3,706,837
無形固定資産	13,082	10,945
投資その他の資産	834,550	784,342
繰延資産	—	10,483
資産合計	7,439,538	8,824,089
(負債の部)		
流動負債	1,299,204	1,623,418
固定負債	928,599	524,743
負債合計	2,227,804	2,148,162
(資本の部)		
資本金	572,620	1,070,520
資本剰余金	233,710	957,810
利益剰余金	4,364,049	4,620,414
その他有価証券評価差額金	41,354	27,182
資本合計	5,211,734	6,675,926
負債及び資本合計	7,439,538	8,824,089

総資産



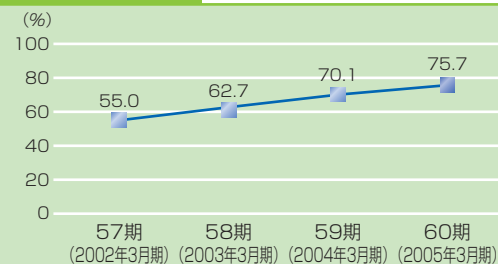
減少傾向が続いておりましたが、株式公開に伴う増資により、前期比で1,384百万円増加しております。

自己資本



株式公開に伴う増資により資本金および資本剰余金が増加し、前期比で1,464百万円増加しております。

自己資本比率



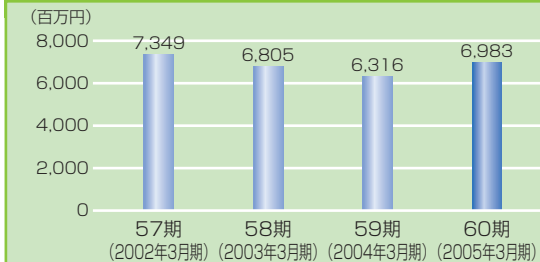
株式公開に伴う増資により、自己資本比率は5.6ポイント上昇し、経営の安全性は一層高まりました。今後は負債とのバランスを考えながら投資効率を高める努力をまいります。

単独損益計算書(要旨)

(単位：千円)

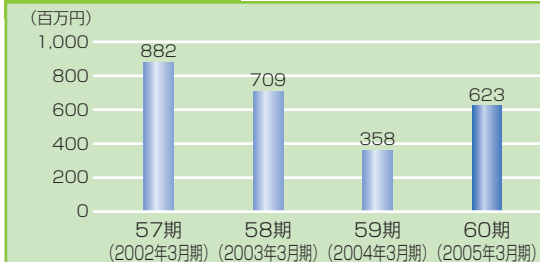
科目	期別	前期	当期
		(2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	(2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
売上高		6,316,962	6,983,528
売上原価		4,798,478	5,177,513
売上総利益		1,518,483	1,806,014
販売費及び一般管理費		1,204,607	1,245,031
営業利益		313,876	560,983
営業外収益		101,846	96,100
営業外費用		57,384	33,268
経常利益		358,338	623,816
特別利益		—	26,986
特別損失		33,671	27,570
税引前当期純利益		324,666	623,231
法人税、住民税及び事業税		108,465	285,228
法人税等調整額		30,651	△28,852
当期純利益		185,549	366,854
前期繰越利益		406,722	521,164
当期末処分利益		592,272	888,019

売上高



水晶製品の売上増により、前期比で増収へ転じることができました。今後は安定成長を目指し、グループ全社を挙げて努力してまいります。

経常利益



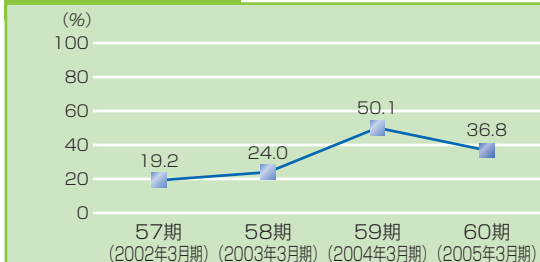
売上高同様、前期比で増益へと転じました。連結の実績と異なる傾向となっているのは、製造子会社の業績が赤字であったことによるものです。

利益処分

(単位：千円)

科目	期別	前期	当期
当期末処分利益		592,272	888,019
収用等圧縮積立金取崩高		10,472	8,288
特別償却積立金取崩額		28,909	24,873
合計		631,654	921,181
これを次のとおり処分いたしました。			
配当金		92,889 (1株につき15円)	134,867 (1株につき18円)
役員賞与金 (うち監査役分)		17,600 (3,700)	17,600 (3,600)
特別償却積立金		—	1,176
別途積立金		—	500,000
次期繰越利益		521,164	267,537

配当性向



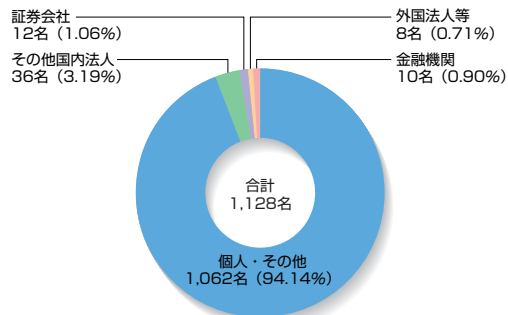
当社は連結当期純利益の20%以上の、安定的な配当性向を目標としております。今期はJASDAQ上場記念として1株につき普通配当15円に加え3円の記念配当を実施いたします。

株式の状況 (2005年3月31日現在)

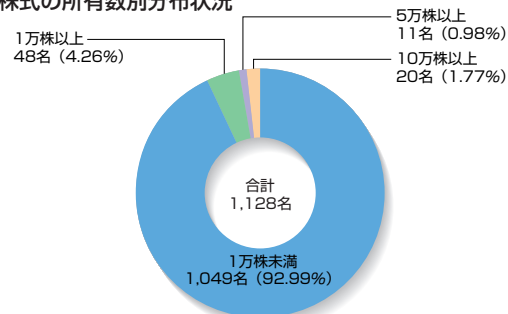
■発行する株式の総数	21,600,000株
■発行済株式の総数	7,492,652株
■株主数	1,128名
■大株主	

株主名(上位10名)	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
若光株式会社	873,368株	11.66%
パナソニックエレクトロニクス株式会社	332,000	4.43
株式会社山梨中央銀行	268,000	3.58
若尾 亘	253,758	3.39
野村証券株式会社	235,000	3.14
持原 和 則	180,000	2.40
持原 ひ ろ 美	168,244	2.25
リバー従業員持株会	164,156	2.19
株式会社みずほ銀行	150,000	2.00
山梨中銀経営コンサルティング株式会社	148,000	1.98

株式の所有者別分布状況



株式の所有数別分布状況



会社概要 (2005年3月31日現在)

■英文社名	RIVER ELETEC CORPORATION
■設立	1951年3月9日
■資本金	10億7,052万円
■従業員数	116名
■事業内容	水晶振動子、水晶発振器等の電子部品の製造及び販売

役員

代表取締役社長	若尾 富士男
常務取締役	岩下 功
常務取締役	浅川 信
取締役	浅川 芳孝
取締役	辻 智晴
常勤監査役	江上 年秋
監査役	中津山 準一
監査役	小林 栢弘

事業所

本社	〒407-8502 山梨県韭崎市富士見ヶ丘2丁目1番11号 TEL. 0551-22-1211(代)
東京営業所	〒160-0023 東京都新宿区西新宿4丁目40番14号 TEL. 03-3377-5444(代)
大阪営業所	〒570-0083 大阪府守口市京阪本通1丁目3番2号 新近藤ビル3F TEL. 06-6998-4888(代)
名古屋営業所	〒465-0043 愛知県名古屋市名東区宝ヶ丘292番地 藤佳ビル2F TEL. 052-776-9531(代)
宇都宮営業所	〒320-0057 栃木県宇都宮市中戸祭1丁目13番27号 TEL. 028-625-7181(代)

リバーグループ(子会社の状況)

会社名	資本金	議決権比率	事業内容
青森リバーテクノ株式会社	千円 50,000	100%	電子部品の製造
台湾利巴股份有限公司	千ニュー台湾ドル 24,000	60	電子部品の製造及び販売
RIVER ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD.	千米ドル 123	100	電子部品の販売
RIVER ELECTRONICS (IPOH) SDN. BHD.	千マレーシアリンギ 10,695	60	電子部品の製造

■ 決算期

3月31日

■ 定時株主総会

6月

■ 基準日

3月31日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に定めることがあります。

■ 配当金受領株主確定日

利益配当金

3月31日

中間配当金

9月30日（中間配当を行う場合）

■ 公告の方法

当社のホームページに掲載します。

<http://www.river-ele.co.jp/>

■ 名義書換代理人

大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

■ 同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

（郵便物送付先・電話照会先）

〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

（住所変更等用紙のご請求） ☎0120-175-417

（その他のご照会） ☎0120-176-417

■ インターネットホームページURL

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

■ 同取次所

住友信託銀行株式会社本店および全国各支店

■ 上場証券取引所

JASDAQ

■ 証券・銘柄コード

6666

株主の皆様との一層のコミュニケーション充実を図るため、下記アンケートへのご協力をお願い申し上げます。頂いたご意見を誠実に受け止め、できる限り経営に反映させていきたいと考えております。

※本アンケートにおける個人情報、今後のIR活動における統計資料として活用させていただきます。その他の目的に使用することはありません。
同封の「プライバシー保護シール」をお名前・住所等個人情報欄にお貼りいただき、ご投函ください。

株主の皆様へのアンケートのお願い

Q1：当社を何でお知りになりましたか？

- 証券会社 知人のご紹介 新聞・雑誌記事 ホームページ
 その他（ ）

Q2：当社の株式を購入された理由は何でしょうか？（複数可）

- 将来性 独自性 収益性 安定性 経営方針 事業内容
 財務内容 株価の割安感 証券会社に薦められて
 その他（ ）

Q3：今後の当社株式にどのような方針をお持ちですか？

- 売却 長期保有 買い増し 未定
上記方針を決定する判断材料は何ですか？（複数可）
 株価 配当 将来計画 業績 株主優待 その他

Q4：当社の株式を長期保有していただくためには何が重要とお考えですか？

- 業績の向上 配当金の増加 株主優待 確かな経営ビジョン
 財務の健全性 新製品の開発 海外への展開 情報開示
 その他（ ）

Q5：当社からの情報取得方法は何を希望されますか？

- ホームページ 郵便物 会社説明会
 その他（ ）

Q6：事業報告書に希望するテーマなどを聞かせてください。

[]

Q7：その他、当社に対するご意見・ご希望があればお願いします。

[]

ご協力ありがとうございました。

RIVER

リバーエレテック株式会社

〒407-8502

山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1番11号

TEL. 0551-22-1211(代)

URL <http://www.river-ele.co.jp/>

郵便はがき



料金受取人払

4 0 7 8 7 9 0

韮崎局承認

4

差出有効期間
平成17年12月
31日まで有効

山梨県韮崎市富士見ヶ丘
2丁目1番11号

切手不要

リバーエレテック株式会社
社長室 IR課 行



（キリトリ）

お名前 /

性別 / 男・女

ご住所 / 〒 (都・道・府・県)

TEL .

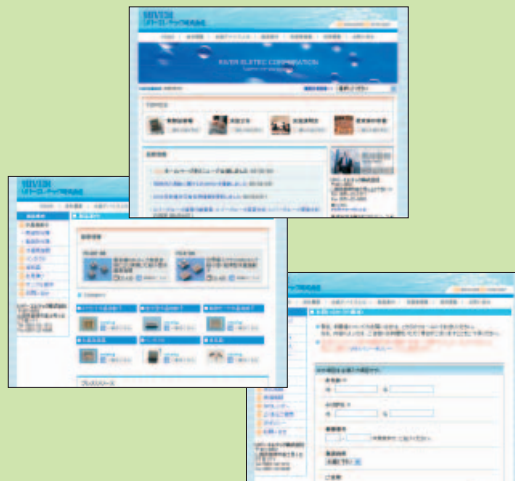
年齢 / 20代以下 30代 40代
50代 60代 70代以上

株式投資歴 / 所有株式数 /

ホームページのお知らせ

当社に関する最新動向や情報をお伝えしております。
ぜひ一度ご覧ください。

URL <http://www.river-ele.co.jp/>



R100
百紙配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH
SOY INK
地球環境に配慮した大豆油
インキを使用しています